

エネルギー環境

教育のひろば



北海道エネルギー
環境教育研究委員
会組織広報部会
2005.2.10
第2号 発行

道南新エネルギーを視察

平成十六年十一月六・七日の見学者全員、白衣とヘルメット。同日、北電泊原子力発電所な手袋、専用の靴と靴下ならびに線らびに瀬棚洋上風力発電施設、森地熱発電所を見学した。一日目は泊発電所の放射線管理区域である燃料貯蔵プールまで入って見学することができた。テロ対策でなかなが見学は難しいのであるが、事務局のご苦労もあり見学することができた。

見学者全員、白衣とヘルメット。同日、北電泊原子力発電所な手袋、専用の靴と靴下ならびに線らびに瀬棚洋上風力発電施設、森地熱発電所を見学した。一日目は泊発電所の放射線管理区域である燃料貯蔵プールまで入って見学することができた。テロ対策でなかなが見学は難しいのであるが、事務局のご苦労もあり見学することができた。



瀬棚町の洋上風力発電施設は道内では珍しい海上の風力発電である。あいにく強風のため船で近くまで行くことはできなかったが海と夕日のコントラストに映えて美しい姿を見せていた。

森の地熱発電所を見学し天然の恵みのありがたさを感じるとともに営業用としての発電の難しさも垣間見ることができた。火山列島日本で地熱を利用しない手はないが、どこでも蒸気が出ていけばよいというものではなく、森発電所も予定の半分の出力を得るに留まっている。自然相手は難しい。



道外視察(三菱重工見学)ものがあつた。その高度な平成十七年一月十一日十技術には、日本の最先端の三日の3日間、北大のエネルギー技術とそこで働く人々のギョー教育研究会と本委員会職人的な技が調和して成の共催で道外視察が催されり立っていることがよくた。今回は現在建設が進めらわかつた。あらためて「入れている泊原子力発電所3づくり」という点で教育に号機の格納容器や蒸気発生携わる我々の仕事の重要器などを製作している三菱性を感した。

地熱発電の有用性と難しさ

エネルギー環境教育

研究シンポジウム開催

日時 平成十七年二月二十日
(日曜日) 十時～十六時

場所 ホテルライフオート札幌

2階 ライフオートホール

内容 講演会(特色ある学校づく

り)、研究発表、実践事例発

表会、調査報告と盛り沢山。

昼食も用意されており

ので奮って参加下さい。

北海道エネルギー環境教育 研究委員会

連絡先 北海道エナジートーク21

北1条西5丁目 北1条三井ビル2F

ホームページアドレス <http://www.enetalk21.gr.jp>

TEL-011(251)9710, FAX-011(251)3974

カリキュラムを つくる

副委員長 平田 又夫

本会では、今、エネルギー環境の視点からのカリキュラム化が行われている。大変楽しみであるが、越えなければならぬハードルも高い。本来、総合的な学習の時間は、指導法に属することであり、教科等の目標・内容をどう教えるかに関わって総合的な学習方法が効果的だと考えれば、その方法を活用すればよいというものである。ところが、現状は教科等

の目標・内容とは別に、独自の目標・内容をつくらうとしていると思う。ここに無理があり、無駄がある。だからでさないのである。もつと教科等、の目標・内容を発展的な活動としてとらえる、エネルギー環境という視点を教科に付加する、ということが必要のように思う。総合的な学習の時間が保証されている今こそ、それらが可能なのではないか。しかも教科の活性化にもなると思う。

の目標・内容とは別に、独自の目標・内容をつくらうとしていると思う。ここに無理があり、無駄がある。だからでさないのである。もつと教科等、の目標・内容を発展的な活動としてとらえる、エネルギー環境という視点を教科に付加する、ということが必要のように思う。総合的な学習の時間が保証されている今こそ、それらが可能なのではないか。しかも教科の活性化にもなると思う。